

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

今週の紙面

- 2面 女性ニュース ■3面 読者のページ/まんが/俳句 ■4面 筋トレ/ホットライン ■5面 憲法講座/ホットライン ■6面 頭皮マッサージ/母の歴史 ■7面 新婦人の活動/主張/訪問介護の現場から



京都・精華町 上原良子

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです。あなたも一緒に

「私の働き方」から考えるジェンダー平等 1日7時間・週35時間労働へ

正規雇用で働いていますが、結婚を契機に退職しました。その後はパートで働き、子ども3人を出産することに退職、在宅ワークやヘルパーなどいろいろな仕事をしました。夫は営業職で残業続きですが、早く帰れるときは夕食をつくってくれます。退職した夫の母

が子どもを見てくれるようになったら、私は事務職の正社員になりました。が、業務を支えているのはベテランの女性たちなのに、新人男性ばかりで、新人男性ばかりで、女性たちはそのままでした。

私はいま、市の委託業務の男女共同参画事業で働いています。やりがい

負のスパイラルから抜け出したい

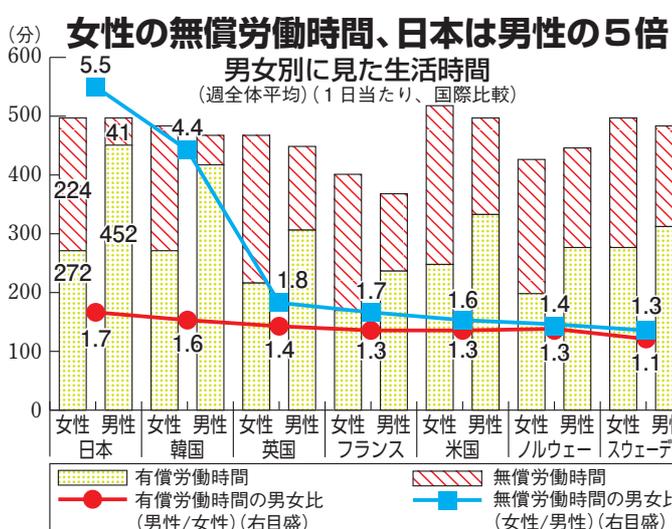
Mさん(40代)

現在、厚生労働省の審議会で、働く人たちの最低限の労働条件を定めている労働基準法の改定の議論がすすめられています。検討されているのは、企業ごとに労働者と使用者が話し合って決めれば労働時間などの規制緩和ができるしくみなど。しかし、求められているのは、家族や自分のためのケアと仕事の両立ができる労働時間短縮です。二人の女性の働き方と全国労働組合総連合(全労連) 副議長で女性部長の高木りつさんの寄稿(2面)などから考えます。

まわりの人と話になるのは、仕事か子育てかの負のスパイラルのこと。子どもの宿題や習い事などに、親も時間が取られ、「子育ては全部親の責任」、家事育児は女性の仕事とみられている社会はしんどい。フルタイムで働いて家事育児をしている友人たちは、夜中にやっと「休憩」何も考えなくていい時間「がとれるけれど、あれこれ考える気がわいてこない」と



イラスト/タコリエ



仕事モードに子どもを巻き込んでいた

Sさん(50代)

私は、大学卒業後、中小企業の出版社に就職しました。先輩たちは出産後も働き続け、私もあきらめずに育休休業や育児時間短縮制度等を利用して働き続け、やりがいを感じていました。朝7時半に家を出て子どもを保育所に送り、満員電車での通勤時間は片道一時間半。いつも走っていました。子どもが病気の時は、職場近くの駅

「男は24時間働いて成果を出せ、女は家のことをしろ、働くなら補助的な仕事で」という性別役割分担を押し付ける構造を変えなければ、若い人が子どもを産みたくても産めない社会は拡大します。

いま振り返ると、仕事モードに子どもたちを巻き込んでしまっていました。子どものいない同僚をうらやましく思ったり、時に子育てが罰のようにさえ感じ、自己責任の「呪い」にかかっていたと思います。

厚生労働省に声を届けよう

「長時間労働なくせ 時短の実現を！」新婦人も参加する労働法制連絡会で、厚生労働大臣あての要請書運動を呼びかけています。「あなたの一言」が書ける署名用紙です。「長時間労働の根絶・労働時間短縮を求める要請書」で検索

